

間仕切桁の長さで継手が必要な場合は一節に1か所のみとし、桁の成は同じ寸法とすること。特に一部分寸法(成)の大きさを必要とする場合は、添桁(助桁)・力貫(眞壁)を入れ補強する。

- 中 桁 (なかげた)

(通称 大梁・牛梁)。中桁とは間仕切桁とは違って、小屋組(勾配グループ)の荷重を受け、また小屋梁や桁等の部材が架設された横架材(部材面等に欠込み)を 中桁 と表示すること。

現在の軸組工法で筋違いを入れる工法なので、間仕切桁・中桁等が角材(押角)になった。特殊な小屋組で桁行方向に架設する特に大きい梁を 牛梁 と云う。

- 添 桁 (そえげた)

2階床組の項に記述した内容に準ずる。

★(注意) ～ 最近よく見受ける住宅建築現場での添桁の架設で添桁の下に柱が立っている。(添桁仕口は柱面とする)。完全に間違っ架設されている建物が多い。

- 力 貫 (ちからぬき)

2階床組の項に記述した内容に準ずる。

- 間仕切頭つなぎ桁 (まじきりあたまつなぎげた)

基本的には、2階床組の項に記述した内容に準ずる。

- 燧 梁 (ひうちばり)

2階床組の項に記述した内容に準ずる。

架設する数量(本数)の目安として、小屋組構造によるが、小屋組面積(1間×1間を1坪と換算する) 1坪当り1本～1.2本 を目安とし、偶数本数とすること。

★ 1本拾いでは必ず1本の必要長さや数量を記入すること。

- ひ うち 板

2階床組の項に記述した内容に準ずる。

- 小 屋 梁 (こやばり)

小屋梁は屋根(勾配グループ)の荷重を支えるものであることはいうまでもなく、小屋組(水平グループ)材であり他の部材と違い多種多様に架設される部材である。登り梁、釘梁、天絆梁、その他数多い。日本建築和小屋の特有の部材である。

材種は主として松丸太を使っている。松丸太でもただ太くあればよいわけではなく、使い方は梁のむくりのある方を上端にして架設すれば丈夫である。松丸太の表面は釘削りとし側面を平らに落す 太鼓落し といった加工方法があるが、これは無駄な材料自体の強度を落すことなく重さを落し、又墨付け加工がやりやすい様に、なお松丸太には時期によっては黴(かび)が発生しやすいので黴止め処理をすること。

黴止め処理剤 ～ 最近は多数の剤料があるが、古くから使用されてきた日本古来